

オリックス、訪日客対策を強化

ホテル・旅館 羽田と地方で拡充



オリックスグループはホテル・旅館事業で、訪日外国人観光客（インバウンド）対策を強化する。その一環として、羽田空港周辺エリアでは2棟目となるホテルを開業。また、ホテル万惣（北海道函館市）と夢科ランドホテル滝の湯（長野県茅野市）を相次いで改装オープンする。

訪日外国人の数は依然として高い伸び率を示しており、政府は東京、京都、大阪を巡る「ゴ

ールデンルート」から地方への誘客を進めている。オリックスでは日本の玄関口と人気観光地の受け入れ態勢を拡充することで、ホテル・旅館事業の基盤強化を図る。

オリックス不動産が開業したのは「ホテルJALシティ羽田 東京 ウエストウイング」。すでに稼働している「ホテルJALシティ羽田 東京」と70メートル離れた場所に位置している。

ホテルJALシティ羽田 東京は大半がシングルユース。このため、夜遅く朝早い出張族に人気で日本人の利用率は8割に達する。これに対しウエストウ

イングは、ダブルとツインからなる103室で構成。訪日外国人比率は6割を見込んでおり、外国人を意識したサービスに力を入れる。

具体的には「言葉の障害をなくすこと」（渡辺仁康・総支配人）を重点課題に掲げ、英語だけでなく中国語や韓国語、モンゴル語に対応できるスタッフを配置した。また、海外のウェブサイトを通じて情報を発信していく。

客室にも工夫を凝らした。具体的には桜や富士山といった日本各地の風景写真をモチーフにしたボードを、ベッド横の壁面



ホテルJALシティ羽田 東京 ウエストウイングの客室。日本をイメージさせる雰囲気を出した
|| 東京都大田区

に装飾。また、着物の裾裏に用いる「八掛」を想起させるベッドライナーを採用しているほか、ベッドの下部にはスーツを収容できるようにした。ラウンジは江戸の小路をイメージした格子模様の壁を配置した。

ホテル万惣は個人客の獲得を意識したりリニューアルを行っているほか、夢科ランドホテル

滝の湯は温泉につながる動線にエレベーターを設置するなど、多世代に対応する。

日本政府観光客によると、1～7月の訪日外国人の数は前年同期比26.7%増の1401万人。ただ、中国人観光客の爆買い現象は失速しており、個人客を中心としたリピーターの確保が課題となっている。